

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 大嶋 満須美	職名 教授	学位 修士 (健康福祉学) 山口県立大学
-----------	-------	----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
成人慢性期看護 看護管理	慢性期、受容過程、家族 組織、人材育成

研 究 課 題
慢性的疾患を抱えた患者・家族の疾病の受容と看護 看護教育

担 当 授 業 科 目
成人看護学概論 (前期)
成人看護学演習 (前期)
緩和・がん看護 (前期)
保健福祉学入門 (前期)
成人慢性期看護方法論 (後期)
成人慢性期看護学実習 (通年)
看護総合実習 (通年)
看護総合演習 (通年)
看護研究演習 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 成人看護学概論 】</p> <p>看護学における成人期の位置づけを明確化し、成人看護の対象を地域社会で暮らす生活者として健康の側面から理解できるように、統計資料等を用いて教授した。また、ライフサイクルの視点では青年期にある学生の成長発達と関連づけながら意識化を図り、授業をすすめた。学生の主体性や共同学習の観点から、グループワークや発表を交え授業を構成した。遠隔授業となったが学生の意見には毎回フィードバックに努めた。</p>
<p>授業科目名【 緩和・がん看護学 】</p> <p>患者の治療や環境において最適とする個別化医療も進んでいる中、がん医療の進歩を把握し、それに伴い看護の専門性と役割拡大を踏まえ解説した。「がん」の罹患による健康障害と患者・家族が歩む治療過程を具体的に解説し、また「緩和」を対象とする考え方の広がりやターミナル期のありようについて資料を基に、現状について教授した。「がん」や「緩和」は、看護者の健康観や人間観そして死と向き合うことの「死生観」を育むと重要な機会として捉え、人々の尊厳と QOL の視点を持ち、看護者かかわることの意義について教授した。</p>
<p>授業科目名【 成人慢性期看護方法論 】</p> <p>系統別看護の展開として、既習の知識、また導入的科目である成人看護学概論や基礎看護学実習の体験を基盤に、健康障害とアセスメントの視点、および看護について具体例を示しながら解説した。特に、形態機能や疾患と結び付けながら、エビデンスに基づいた対象への看護について教授した。授業は遠隔授業で行ったが、学生の既習の知識が看護実践に応用できるよう単元毎に確認を行い、次回に繋げた。</p>

<p>授業科目名【 成人看護学演習 】</p> <p>成人看護学実習に向けた前段階として位置づけている。2年次に学習した看護実践の基盤となる看護過程の思考を深め、看護実践能力を育成するため模擬患者による課題演習を基本とし、看護技術の習得を意図し技術演習を組み入れ「看護過程」と「看護技術」を柱として展開した。グループワークと個人ワークを組み合わせ、学生の進行状況を確認しながら解説を行い、個別にも配慮しながら領域担当が全員で関わった。遠隔授業による困難感はあったが、演習終了後、課題や到達度について協議し、教員間で進捗状況や方向性について情報共有を行った。</p>
<p>授業科目名【 成人慢性期看護学実習 】</p> <p>学内実習への変更により、実習スケジュールを再編し、模擬患者による実習を展開した。用意した模擬患者事例を中心に、慢性疾患の病態理解と看護の方向性について学生の思考を確認しながら担当教員と指導した。イメージ化を図るためDVDなどの視覚教材を使用した。指導においては、アセスメントの視点を重要視し、時間をかけて看護過程の展開が出来ることを目標とした。また慢性疾患の自己管理や継続看護の重要性についても計画に組み入れた。学生カンファレンスの場を通じ、看護実践について助言を行うとともに学びの共有を図った。実習終了後は個別面接を行い、自己の学習課題の明確化を図った。しかし、急遽、学内実習への移行を余儀なくされた状況下、これまで臨地実習で患者や家族、また多くのスタッフ、多職種との関りや直接指導を受け「体験から学ぶ」機会を得ることが出来なかった。この貴重な体験を学内実習でカバーするには限界もあり、且つ実習教材も十分に整備された状況にはない。実習展開においてはさらなる工夫が必要である。</p>
<p>授業科目名【 看護総合実習：成人慢性期・終末期 】</p> <p>看護職への将来展望を視野に入れ、学生自らが実習計画を立案し、調整する等、学生の主体性と看護の洞察が深まることを意図した科目である。しかし、COVID-19の影響で学内実習となり、他のグループと合同で行った。実習展開は受け持ち事例と看護場面を想像し、事前学習をもとに看護技術の実践に繋げた。限られた環境の中で、思考を働かせ、実践計画を立て、メンバーと協力しながら看護技術を提供する過程を通して、エビデンスの確認と共に、社会に出る前の学生として対象に適した個別性のある技術提供のあり方を再確認する機会となった。</p>
<p>授業科目名【 看護総合演習 】</p> <p>看護総合実習前後の演習として位置づけられている科目である。しかし、臨地実習が急遽中止となり、テーマに沿った文研研究に変更し、その成果発表を行った。学生が関心あるテーマや自己の課題について文献検索を踏まえ、課題に向き合い、主体的に取り組めるよう個別に関わった。学生の思考の整理と言葉にある背景やそれぞれの現象を概念化し、また、論文作成のプロセスを共有する中で看護観や死生観が深まるよう助言した。看護に対する洞察は学生自身の専門職としての自立の一步として捉え、成果発表をはじめグループメンバーとの学びの共有により、新たな視点や看護の多様性について学ぶ機会となった。</p>
<p>授業科目名【 保健福祉学入門 】</p> <p>履修学生は学部3学科(看護・福祉・栄養)の1年生である。社会の期待に応えるための保健・医療・福祉の専門性と多職種連携の意義を理解し、課題に対する認識を深め、学部の入門編として自己の専門性との関連を学修できるよう構成されている。合同講義を通じ、専門性を深め、他領域を知り、理解することにより、より広く現象を捉えることを意図している。遠隔授業となったが、毎回ミニレポートの提出を行い、「他職種」と自身の専門性における課題の明確化を図った。</p>
<p>授業科目名【 看護研究演習 】</p> <p>既習の知識・技術・理論および臨地実習の経験をもとに自ら看護に関する研究テーマを設定する。また文献検討をはじめ一連の研究活動の基本を学ぶ選択科目である。本年度のゼミ生には履修選択者はいなかった。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護協会		1975年～ 現在
日本家族看護学会		1997年～ 現在

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
一般財団法人 佐波共済会	評議員	2017年5月～ 現在
福岡県看護協会	地区支部 施設会員代表者	2018年4月～ 現在
日本私立看護系大学協議会	施設代表者	2018年4月～ 現在
日本看護系大学協議会	施設代表者	2018年4月～ 現在

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・看護学科 学科長 (2018年4月～ 現在) <li style="padding-left: 20px;">運営会議、入学試験会議、点検評価改善会議、教授会、学生総合支援室会議の構成員 <li style="padding-left: 20px;">学科会議議長 <li style="padding-left: 20px;">学科運営・人事にかかわる事項 ・看護キャリア支援センター長 (2018年4月～ 現在) <li style="padding-left: 20px;">看護キャリアセンター運営にかかわる事項 <li style="padding-left: 20px;">認定看護管理者教育課程 講師 <li style="padding-left: 40px;">ファーストレベル講師 (2020年12月5日) <li style="padding-left: 20px;">認定教育課程検討委員長 (2018年4月～現在) <li style="padding-left: 20px;">認定教育課程運営委員長 (2018年4月～現在) 	